

第3回 昭和の森「親子たんぼ教室」

花島伸美（千葉市）

日 時：2013年5月11日（土）9：30～12：30

参加者：10家族（大人13名、子ども13名）計26名、見学者 大人1名、子ども1名

田植え指導：昭和の森ビオトープの会 西川章さん

担当指導員：山下美佐子、山田益弘、小林義和、佐藤一枝、武田宏子、花島伸美

親子たんぼ教室も今年で2年目を迎え、昭和の森ビオトープの会のご好意で、昨年よりたんぼの数も増え、田植えの面積も広がった。昨年は応募者に年齢制限をしなかったため、今年は小学校3年生以上15組の募集にし、実際は10組の参加であった。

田植えと稲刈りをセットにしての参加だが、小雨の降る中、全親子参加の田植えとなった。昭和の森ビオトープの会の西川さんから、苗の持ち方や田植えの方法の指導を受け、3班に分かれ、それぞれのたんぼに向かった。2人の指導員が目印のついたひもを結んだ棒を回しながら、30×30cm間隔で、3本ずつ苗を植えていく。前進する班と後退する班があったが、みんな印を見ながら自分の前や両端に苗を植えていった。子ども達は最初は冷たい水に驚いたり、泥に足を取られそうになったりしていたが、だんだん慣れてきて「楽しいね」「きれいに植えようね」と、声を掛け合いながら田植えを楽しんだ。ほとんどの親子が田植え初体験であったが、実りの秋を楽しみに田植えを終えた。

その後、生き物観察のために残しておいた池へ移動した。田植えをきちんと終えた解放感もあって、子ども達は網を手に、ドボンドボンと池に飛び込んでいった。網で泥をすくうと、その中に動くものが…。子ども達は「カエルの赤ちゃん」とヒキガエルの子どもや「オタマジャクシ」「メダカがいた」とピクピク動く小さな生き物達を見つけては、予めテーブルに置いてあった、貝類、ヤゴ類、メダカ等のトレーの中に仕分けていった。

参加者は最後に、稲の生育やたんぼの生き物についてイラストで説明を受け、降り続けた雨をものともせず、笑顔で帰って行った。ビオトープの会の方々にたんぼ作り、苗や道具の用意などのご協力があったからこそ実現できた親子たんぼ教室、今年も良いお米が取れますようにと願って終わった。

<当日、池で見られた生き物>

ヒメアメンボ、ヒメゲンゴロウ、マメゲンゴロウ、コミズムシ、ゲンゴロウの幼虫、アメリカザリガニ、ウシガエルの成体、ヒキガエルの成体になったばかりのもの、ドジョウ、カワニナ

